

○ 氷の下の魚はワカサギのみにあらず

年明けから寒い日が続いています。この時期毎年のように「どうしてうちの先祖はこんな寒い所に住み着くことにしたんだろう」と思います。そんな冬にお客さんから時々訊かれるのが「冬の間池は凍らないんですか？」という疑問。当園の池の水は近くで湧いている地下水をひいているので一年を通じてそれほど温度変化がなく、基本的には凍ることはなかった...



池もそうですが足元も凍っていることが多く、夏場以上に魚をすくうときに気を使います。

... のですが、近年はそうとも言えない時もあります。冬の間流れてくる水の量が少なくなり、朝の冷え込みが厳しい日には池の表面が凍ることも。そんな時は魚をすくう前に氷を割って、氷を引き上げなければなりません。「魚は凍らないの？」と心配してくれるお客さんもいますが、今のところそこまで深く凍ることはありません。「冬場のにじますは身が締まっていておいしいですよ」と答えています。え？夏はどうなのか訊かれたらですか？もちろん「脂がのっておいしいですよ！」って答えます。

○ 時代を映す記念品

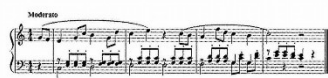
今はめったに使うことのなくなった当園の二階、その一番奥にある小部屋には余り使わなくなった備品や、昔からあって捨てるに捨てられない道具が保管してあります。片付けの最中、そんな道具の中にあつた火鉢の横に書かれた文字に目が止まりました。「美生小学校創立五拾周年記念」。小学校の周年事業の記念品が、なんと火鉢。時代を感じる... と言いたいところですが、実際はいつのものなのか。「美生五十年史」によりますと、明治37年4月に児童14名で開校とのこと。創立50年というと昭和29年、ばっちり火鉢の時代ですね、よく知りませんが。それにしても車もほとんどなかった時代、記念式典に参加した皆さんは火鉢を担いで帰られたんでしょうかね。



この他にも火鉢が5個ほど。当時は暖房器具はこれだけだとすると、ひと部屋にひとつ、ですかね。

○ お風呂が沸きました、といえば

先日我が家のボイラーが壊れました。交換は時間がかかるという話も聞いていて不安だったのですが、運よく交換できる物が見つかり、お風呂を求めてさまよう生活は三日間で終わりを告げました。温かいお湯が使える有難みを実感しつつ、ひとつだけ残念だったのがお風呂が沸いた時の音。これまで使っていたノーリツのボイラーは音楽の後に「お風呂がわきました」と知らせてくれましたが、今度の機械は「ピーピー」と鳴るだけ。なんだか物足りなくてネットで音楽を探してみると、見つかりました「お風呂のメロディー集」。さらに驚いたのが以前使っていたノーリツの音楽は「音商標」として商標登録されているという話。その説明によれば、メロディー選定の理由は「お客さまにこれからお風呂に入る高揚感と幸福感を感じてほしいという思い」であると。いや、ノーリツさんの風呂への思い、熱いですね、ボイラーだけに。



本商標は、五線譜に示す音に続いて、『お風呂が沸きました』という、人の声が入る構成になっており、全体で約11秒の長さである。

商標の説明です。曲は「人形の夢と目覚め」。お風呂で寝てはダメですよ。